P-123

一般検診者を対象としたパルスオキシメーターによる睡眠呼吸障害のスクリーニングの有用性

○吉嶺　裕之、原田　義高、松本　直哉、森　直美、酒井　利恵、白水　里奈
社会医療法人春回会井上病院

【目的】一般検診者を対象としパルスオキシメーターを使用した「SAS検診」とそれに続くPSG検査および治療導入を行い、その有用性と問題点について検討を行った。
【方法】2012年6月1日より同年9月30日までにの4ヶ月間の間に無料で「SAS検診」を勧め同意が得られたものについて、終夜パルスオキシメーター装着と一般的な身体測定・自覚症状・SF-36などの問診を行った。3%ODIなどによる独自の基準により「要精密検査」となった患者は保険診療によるPSG検査および治療を受けた。また、CPAP導入となった患者において、満足度調査を行った。
【結果】4ヶ月間の健診センター受診者は男女合計2422名であった。SAS検診受診者は男性711名（全検診者の44.6%）、女性389名（全検診者の46.9%）、合計1100名であった。3%ODI≧5の者の割合は、男性430名（60.5%）、女性80名（20.6%）であった。3%ODI≧10の者の割合は、男性198名（27.8%）、女性20名（5.1%）であった。PSG検査を受けたものは、男性50名、女性5名、合計55名であった。JESSは、平均8.5点であった。PSG結果後の治療方針で、指導のみ12名、口腔内装置推奨3名、CPAP導入推奨40名であった。CPAP導入し一ヶ月以上継続できた32名についてアンケートを行い、満足度調査を行った。JESSは平均7.8点から4.9点に改善していた。SF36では、活力と社会生活機能がCPAP導入後改善をしていた。
【考察】約半数弱の一般検診者が自覚症状の有無に関わらずSAS検診を受けたところ男性で約3割の方が要精査対象者となった。一方、女性においては要精査者は5%程度にとどまり、今後ターゲットを絞った効率のよい方法でのスクリーニング検査が必要である。PSGの結果、CPAPを導入した患者において自覚症状の改善および健康関連QOLの向上も見られており、一般検診者を対象としたSAS検診は有用と思われた。